

# ぶれない頭と眼を養う「哲学的訓練」

## ——指針なき現代の一步先を読み解くための実践講座

佐藤 優 （聞き手・小峯隆生）

※外交の最前線で培った対人術の要諦をまとめた書籍『人たらしの流儀』で、佐藤優さんの聞き手を務めた小峯隆生こと、私は、筑波大学で『コミネ語り』と称した講座を不定期でおこなっている。私の講座に、佐藤優さんをゲストスピーカーとして招き、始めたのが、このワークショップ。新しい世界観を身につけるべく、今月も、ともに学んでいこう。

### 第七回

#### 2012年現代日本は、江戸時代？

佐藤 2011年1月、シリアの内戦が激化しました。これは、チュニジア共和国で起こったジャスミン革命に端を発したアラブ諸国の民主化運動の一つです。一連の騒乱は「アラブの春」と呼ばれています。このように世界が騒乱のさなかにあって、われわれ日本人に目

を移しますと、どうも国内にしか目が向いていない。ややもすると対岸の火事のように暢気のんきに構えている感が否めません。

世界情勢の激しい変化を、なぜ、そのようにしか受け止められないのか。その根底に何が起因しているのか。われわれの思想領域に踏み込んで考えてみましょう。

1993年に刊行された柄谷行人からたにこうじん著『言葉と悲劇』（講談社学術文庫）の「江戸の注釈学と現在」の章によれば、昭和10年代（1935～1944）に「江戸ブームが起こった」とあります。この「江戸ブーム」の時に世間では「時代小説」が広く読まれた、ともあります。

ここでの「時代」とは「江戸時代」のことです。歴史的関心から広く読まれたのではなく、江戸の中に当時のいまを投射した「時代小説」が広く読まれていたわけです。

さて、昭和10年代ではない、いま2012年の書店を見渡しますと、時代小説の文庫が大変賑やかです。作品自体は、きちんと時代考証を経ているでしょうが、読者に、「時代小説」を読んで「江戸時代」を勉強しようという考えはないでしょう。武士の階級社会を現在の会社組織に当てはめたり、市井しせいの人々の暮らしを同じように自分自身に置き換えてみたり……。

昭和10年代に起こった江戸ブームで、時代小説が広く読まれた構造も同じです。同じ江戸時代のものであっても、国学こくがくや本居宣長もとおりりのながが読まれたかということそうではない。そこには、歴史への関心の欠落が見て取れます。

少し話は古くなっていますが、歴史への関心の欠落の最たるものが菅直人元総理かんなおとの発言です。菅さんは、自らの内閣を「奇兵隊内閣」なんて名づけてしまいました。

正規軍に対して奇兵隊でしょ？ 菅さんは政府の人間、いわば正規軍のほうでしょ？

——確かにそうですね。

**佐藤** なぜ「平成の開国」、「奇兵隊」、「平成の坂本龍馬」といった表現が政治にでてくるのか？ これらはすべて、歴史に関心があるのではなく「いま」を投影しているだけなのです。

最近の日本の大学生は、ヨーロッパ、さらにはアメリカさえにも留学しない傾向がつづいているそうです。そして、海外旅行自体も減ってきています。

これは、排外主義的（ショービニスティック）なナショナリズムではないのですが、「別に、外国から学ぶものはないし、国内で満ち足りている」と若者たちが何となく、そう思っている。

これは、歴史が何かに到達するとか、達成すべき何かを持つという概念がなくなった状態で、一種の「歴史の終焉しゅうえん」です。我々自身が、いま、新しい江戸時代を国内で創り出している表れです。

江戸時代というのは、一つの日本の完成体でもありました。

——海外に行って、学ぶものも見るものも何もない。日本国内は安全で、近くのコンビニ行けば、全部あると……。

**佐藤** そうです。

江戸時代は、鎖国をしてはいましたが、決して国を閉ざしていたわけではない。オランダ、琉球、朝鮮、清国とも外交関係はありました。国際文献としては、中国語のものは全部読むことが可能な時代でした。

しかし、江戸時代の人々や幕府は「世界は完成している」として、外に目を向けなかった。

その結果、その当時の人々の美意識は、最終的にエログロナンセンスに向かいました。

化政文化と呼ばれる文化・文政の時代に鶴屋南北の「東海道四谷怪談」などが生まれた背景にはこうした要因があったと考えられます。

当時と現代日本に共通して言えることは、人々の間に諦念めいた空気があるということです。江戸時代なら、世の中は安定し、平和で、士農工商といった身分制度もあり、町人の「今日」は「昨日」と同じであり、「明日」も「今日」と同じです。

現代を見れば、いい大学を出て、いい会社に入って順調に年功序列で出世するという社会生活モデルは、もはやありません。今日のがんばりが未来を変えるとといった熱みもないものを感じにくい状況です。

ハード面においても、パソコンやネットが登場したぐらいで、劇的な社会インフラの変化というのありません。人々は、個々の商品、サービスの差異や情報を生み出すことに時間を費やしていくようになりました。

現代日本で、それが、最も可視化されたのが、AKB48です。

AKB48は大きくみれば、同じような女の子が集まったアイドル集団です。集団内の彼女たちの、ちょっとした差異を楽しむ行為に、多くの人が熱をあげています。そして、AKB48

のみならず SKE48、HKT48……と日本全国に多くの集団が生まれ、その差異を楽しんでいます。

「歴史が終わった」「世の中はもうこれで完成されている」という閉塞感と、外国での出来事に関心がなくなっていく内向き思考は表裏一体です。

いまの日本は、見たくないモノは見ないし、その必要性が感じられない。すでに自己充足してしまっている状態なのです。

## 知っているようで知らないファシズムとナチズム

佐藤 多くの人々は、ファシズムとナチズムを混同しています。

——どう違うんですか？

佐藤 ナチズムというのは「血と土」の神話に基づく荒唐無稽な思想です。アーリア人種は、優秀なんだ。

「どうして？」と聞くと、「優秀だから」それだけの話なんです。

ナチス理論に基づくアーリア人種はドイツ人に限らない。実は、ノルウェー人もアーリア人種なんです。

当時のノルウェーの大統領のキスリングが、ヒトラーの友人だったからです。キスリン

グはインテリです。ヒトラーは読書家だけど、インテリではありませんでした。

だから、基礎教養がしっかりしていないヒトラーは、所謂、トンデモ本みたいなのが大好きで、「ユダヤ陰謀説」本をたくさん読んでいるうちに、世界はユダヤに支配されているんだと思い始めてしまった。

それで、その陰謀説をぶち上げたら、世間が、それに乗って、いつの間にか、本人が総統様に成り上がった、という流れなんです。

——なんだか、それって、非常に、怖くないですか？

**佐藤** 当時のドイツがあれほど、社会的に病んでなければ、ヒトラーが支配することは無理だったと思います。

そこで、昨年起こったノルウェーのブレイビク事件について考えてみましょう。

——あっ、ノルウェーで、2011年7月22日に発生した、ナチのSS親衛隊将校役がピッタリ似合いそうなブレイビクが首都オスロの政府庁舎を爆破して、8名を爆殺したのち、ウトヤ島に移動して、カービン銃を乱射して、計77人を殺害したテロ事件ですね。

**佐藤** ノルウェー政府は精神異常という形だけの処理をしましたが、あの事件が起きる土壌は考えてみればあったのです。

—それは、なんですか？

**佐藤** いまでは、信じられないことですが、ノルウェーは、第二次大戦中、ナチの SS 親衛隊の将校たちを集めて、ノルウェーの金髪女性と結婚させて、優秀なアーリア人を生産する「人間牧場」を作っていました。

前出のキスリング大統領が中心となって、それを進めたのです。

戦後、キスリングは、自分はノルウェーの愛国者だと強調しましたが、民衆がそれを許さず、戦前、死刑はない国でしたが、その時だけ、憲法を改正して、キスリングだけを死刑に処しました。

キスリング処刑後に、また、憲法を元に戻して、死刑廃止にしました。

ちなみに、健康診断、癌検診、さらには禁煙運動を導入したのはナチスです。胚芽入りパンを奨励したのもナチスです。

ナチスは健康帝国を作ろうとしていましたから。

—なんでですか？

**佐藤** ナチスの思想は生涯現役。現役でなくなり、労働力でなくなった人間は、速やかに死ぬことが期待されました。

何故、健康を重視したか？ それは、個人の身体は総統のものだからです。

国家のために使う肉体は健康にしておかなければならない。

女性は子を産む。だから、社会に進出せずに家庭にいて、子を育てるのが仕事。  
避妊は禁止で、子供をできるだけ増やし、東側に入植地を増やし、アーリア人を増やしていく。

とても、シンプルな考え方なんです。

強いものが正義。だから、我々の「群れ」は生き残っていく。これがナチズムです。  
「群れ」というところで、ファシズムと共通するところはあります。

しかし、ファシズムは、ナチズムと違って、非常に質的なレベルが高い。

——質ですか？

**佐藤** そうです。まず、意外に思われるかもしれませんが、ムッソリーニとヒトラーの会談録は残っているものが少ないのです。

——軍事機密だからですか？

**佐藤** いいえ、違います。

まずムッソリーニがドイツ語に堪能<sup>たんのう</sup>で通訳がいらなかった。さらに、フランス語、英語、ギリシャ語、ラテン語に堪能でした。ムッソリーニはニーチェをドイツ語の原文、プラトン、アリストテレスをギリシャ語で読み通すことのできた知識人です。

彼は、マルクス主義者で、もともとイタリア社会党の機関紙『アバンティ』の編集長だ



ったんです。

——すごい、インテリなんだ!!

**佐藤** そんなインテリだから、ムッソリーニはこんな考え方をしました。

資本主義は放っておくと、必ず、格差を生じさせ、絶対的貧困層を作り出す。

その階層になったら、自分の力では上に上がれない。家庭も持てず、子供も作れない。作れたとしても、教育の水準が下がる。その結果、労働力の質が低下する。

資本主義で、啓蒙を続けていけば、人類が豊かに賢くなっていくというのは「まやかし」である。

だから、社会構造を変えなければならない。でも、共産主義はダメだと。

——えっ、なんでなんですか？ ムッソリーニは、マルクス主義だったんですよね？

**佐藤** いや、当初はマルクス主義ですが、のちに考え方を変えました。ムッソリーニはマルクス主義が性善説に基づいていることに対して忌避<sup>きひ</sup>反応を示しました。

——うん？ まだ、よくわかりませんが……。

**佐藤** 性善説に立つと、共産主義になり、国有化された生産施設で、国民は一生懸命働く。

しかし、そんなことは実際にはあり得ない。人は皆、裏ではサボる。そういう人間が必ず出てくる。

サボる人間が続出すると、生産効率が上がらないから、抑圧政治を始めなくてはならない。また、人間には他者の上にいたいという優越欲があります。共産主義になっても、この優越欲は残るので、みんなが仲良くなりうる社会はできないと考えました。だから、共産主義はダメなんだと。

――なるほど!!

**佐藤** 資本主義でも共産主義でもない第三の道をムッソリーニは模索しました。

すなわち、国家が資本家に対して、雇用を確保し、賃金を払えと命令する。それらをやらない時は、そのような資本家を監獄にぶち込む。

そして労働者にはストライキを認めない。働かざる者、食うべからず、というわけです。

しかし、身体障害者は、自分たちの同胞であるから、皆で支えあわなくてはいけない。

こうした概念で、「仲間を束ねる」。イタリア語で、**Fiasco**(ファシオ)。仲間を束ねていくのが、我々のファシズムなんだと。

――人々の束ね方が、ナチズムとファシズムでは、根本的に違いますね。

**佐藤** そうです。

さらに人種に関する考え方は、以下のように違います。

イタリア人で、生まれながらのイタリア人はいない。

重要なのは、国家に対して一生懸命やっているかどうか。国家に対して一生懸命やる者が、イタリア人。イタリア人とは、イタリアのために一生懸命やる人を指します。

——なんとも随分、わかりやすいですね。

**佐藤** ファシズムでは、ユダヤ人差別をしません。ユダヤ人でもイタリアのために一生懸命やるのならば、イタリア人だと。

さらに、女性に対しての考え方がナチズムとは違います。

女性が家に留まるのは、おかしい。女性の力は社会のために最大限活用しないとならない。

そこで、行われのが、婦人参政権の導入。軍では女性を将校に登用。優れた女性の下で男が働くのは当たり前。

国家というものは、利己主義な存在であり、常に、隣、外の国家から収奪して、食いものにすることを考えている。

だから、戦闘精神を忘れるな。いつでも戦える精神を持っていないと、国家は生き残れない。

こういう形で、社会を作るファシズム運動を始めたんです。

——前半は、とても良い国のように、聞こえますが……。

**佐藤** そうですね。ファシズムは、悪の権化のようなレッテルを貼られています。世界を見渡せば、かなりの国がファシヨ化しているのがわかります。

たとえば、北欧諸国。ゆりかごから墓場までといった高度福祉政策を取る北欧国々の税金は高いですね。しかし、原理的に自国の国民にとって手厚いだけで、外部を排除しているわけです。そうした手法で北欧諸国は自国民を束ねているともいえます。

アメリカも、オバマ大統領は、国に対し、2ドル払った者、5ドル、10ドル払った者関係なく、一生懸命国家に尽くしている人間がアメリカ人という考え方をしています。「一つのアメリカ」を強調し、先の大統領選では再選しました。

共産主義が魅力ある国家体制ではなくなった現在、新自由主義的な流れを克服するために各国は様々なファシズムのバリエーションを創り出しているのです。

〈つづく〉

## 今月の内容をより深く学ぶための本

『言葉と悲劇』柄谷行人著 講談社（講談社学術文庫）